

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西区
学校名	大阪市立本田小学校
学校長名	今村 友美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

#### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

### 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・本田小学校では、第6学年113名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

算数科、国語科の両教科とも、学力格差が広がっていることが明らかになった。特に算数科では、全国及び大阪府よりも大きく格差が広がっていることが見て取れる。国語化では全国平均を大きく下回る問題と平均前後の問題の差が大きく、算数科では全体的に平均を下回った。児童アンケートでは、いじめや命に関する項目や総合的な学習に付随する項目では全国平均を上回る結果となり、学校としての取り組みの成果は見られる。しかし、教科教育を楽しいと感じている児童や教員との関係を肯定的に感じている児童の割合は全国を下回る結果となった。さらに、最も特徴的なデータとして放課後の過ごし方があった。読書や勉強をして過ごしている児童は全国平均より20%も低く、テレビ・動画・ゲーム・SNSを使っている割合が高かった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 全国平均だけでなく大阪府平均より2ポイント下回る結果となった。学力上位層は全国平均より少し少なく、中間層が少なく、下位層が非常に多い、フタコブラクダのような分布になった。つまり、学力格差がはっきりとした結果となっている。間違えの多い問題を見てみると、話すこと・聞くことの領域に関する問題と正しく漢字を使うことの問題で全国平均を大きく下回っており、基礎的な学力の低下も伺うことができる。しかし、書くことの領域では、全国平均を上回っており、アウトプットを大切に学習してきた成果が見て取ることもできる。

〔算数〕 全国平均だけでなく大阪市平均より2ポイント下回る結果となった。正答数分布グラフを見ても、3つのコブができるおり、学力格差が明らかになっている。特に正答数が4問以下の児童も全国平均より多くなっている。各問題を見ても、全国平均を上回る問題は3問で、他は下回る結果となつた。特に図形の問題では全国平均を10ポイント下回る正答率の問題もあった。

質問調査より

本校のめざす「自分と周りの人を大切にする子」の育成に向けて、「いじめは絶対にしない、させない、許さない」姿勢を貫いており、その成果が見られた。(最も肯定的に「許さない」と回答した児童の割合が大阪市平均を6ポイント上回った。)また、資料からもわかるように、児童の対話に焦点を当て「お互いを認め合える本田っ子」の育成をめざした本校の研究、150周年に向けて力を入れている総合的な学習の時間の取り組みにも一定の成果が見られる結果となった。一方で、本校児童の放課後の時間の使い方についても他の自治体の児童との間に大きな差が見られた。3時間以上をゲームやSNS、動画視聴に費やす児童の割合が10ポイント以上高く、家庭での約束事が設定されていない児童の割合も高いことがわかった。家庭学習の時間に大きな差が見られないこと、校内調査の結果から、睡眠時間等にそのしわ寄せがきているのではないかと推測される。

## 今後の取組(アクションプラン)

本校のめざす「自分と周りの人を大切にする子」の育成に向けて、「いじめは絶対にしない、させない、許さない」姿勢と指導及び、総合的な学習の時間を通した表現する資質・能力の育成については、今後も継続していく必要がある。また、二極化する子どもたちの実態に合わせ、講義形式の一斉授業だけでなく、探求的な学習、単元内自由進度学習や『学び合い』など多様な学習形態を取り入れながら、学びに向かえる時間の確保をしていく。そのため、校内研究では「学習の個性化」に焦点を当て、チームで取り組んでいく。子どもたちそれぞれの現在地から少しでも学習を楽しみながら成長していくように支援していく方法や理論を教職員で学んでいく機会を保証する。合わせて、SNSやゲームへの依存傾向を踏まえ、情報リテラシー教育も各学年で実態に応じた指導を各学期ごとに行い、実践の蓄積をしていく。

## 【 全体の概要 】

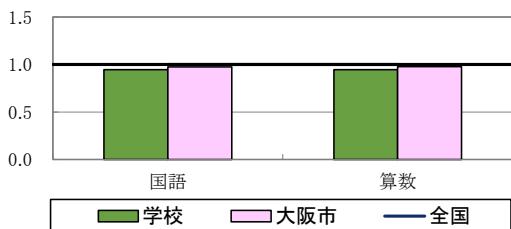
平均正答率(%)

	国語	算数
学校	64	60
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

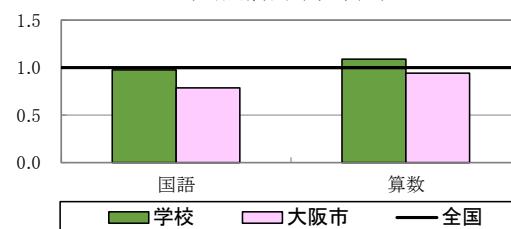
平均無解答率(%)

	国語	算数
学校	4.1	3.7
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



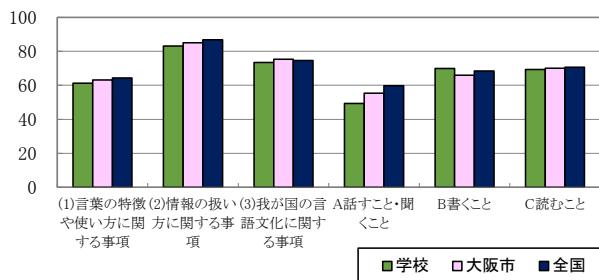
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	61.3	63.1	64.4
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	83.2	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	73.5	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	49.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	69.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	69.3	70.1	70.7

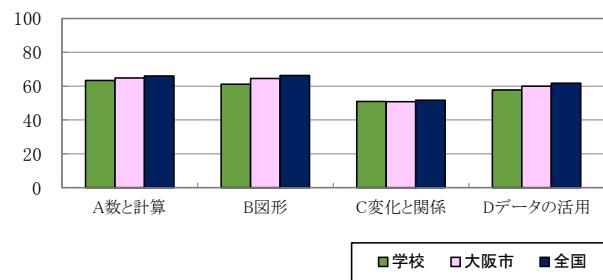
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	63.4	64.8	66.0
B 図形	4	61.1	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	51.0	50.8	51.7
D データの活用	4	57.7	60.0	61.8

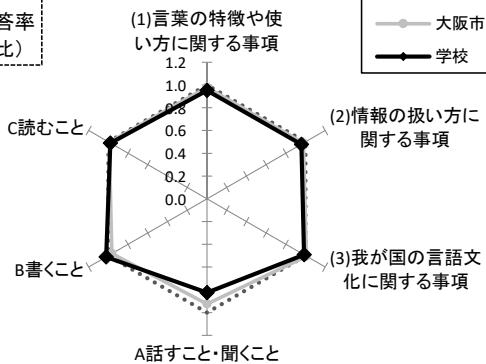
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



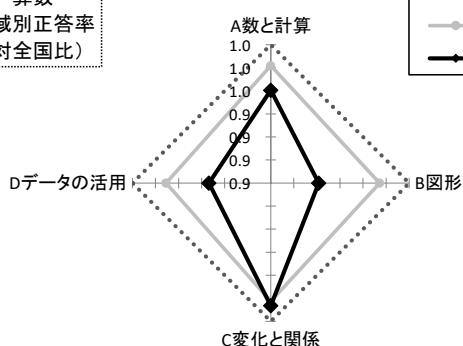
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)



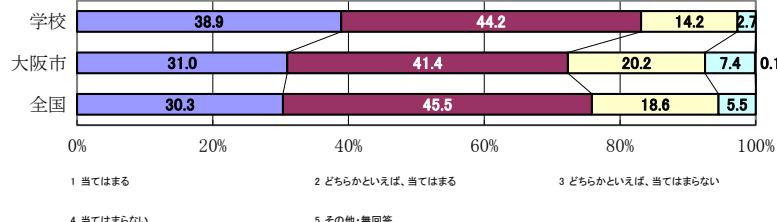
算数  
領域別正答率  
(対全国比)



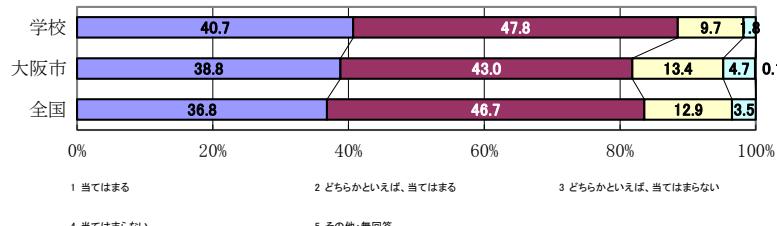
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

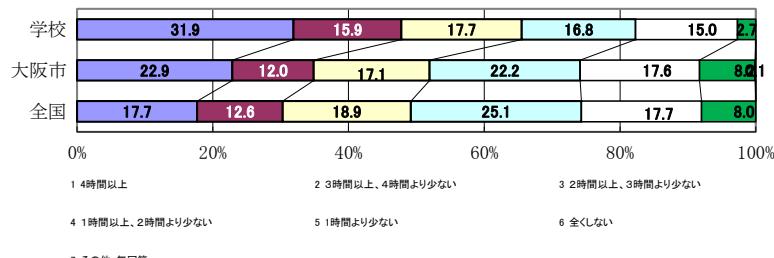
質問番号
質問事項
17
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



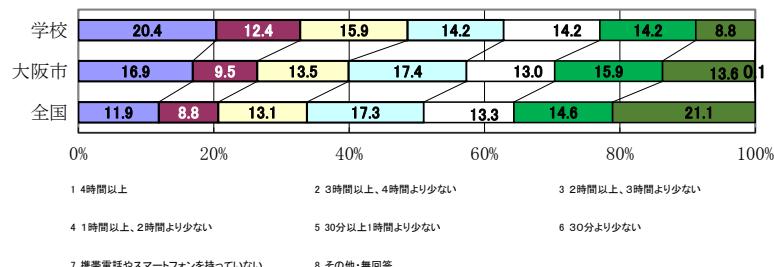
25
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



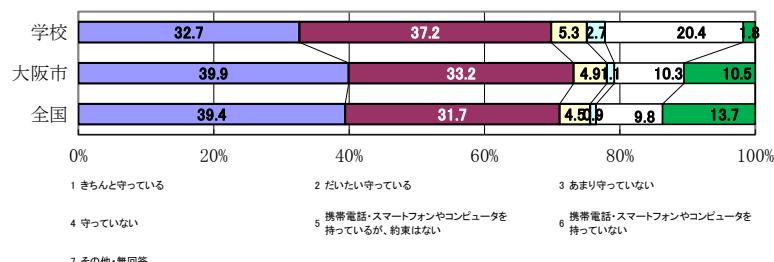
5
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



6
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



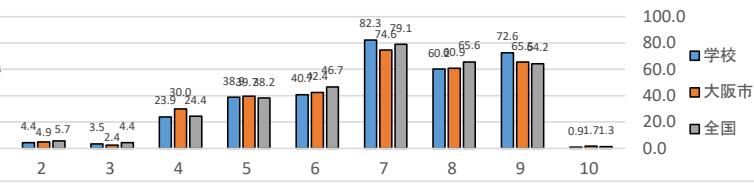
7
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家人の人と約束したことを守っていますか



## 児童質問より(26)

質問番号
質問事項
26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか  
(複数選択)



1 家で勉強や読書をしている

2 放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している

3 地域の活動に参加している(地域学習協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1~9に当てはまるものがない

## 学校質問より

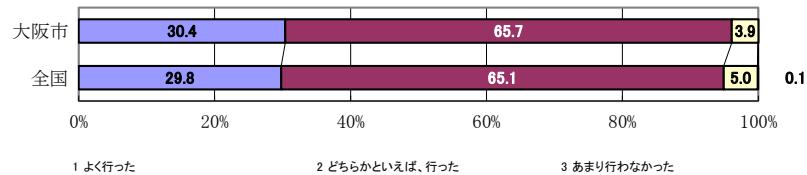
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

### 学校 「よく行った」を選択

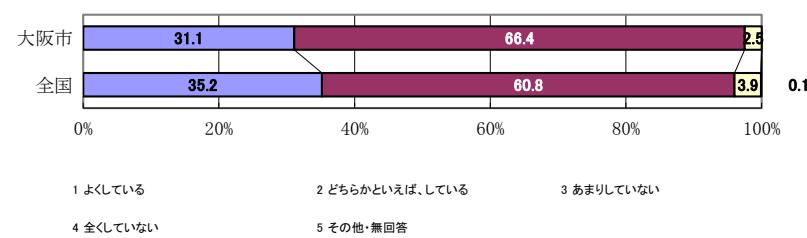


0.1

39

調査対象学年の児童に対して、特別の教科・道徳において、取り上げる題材を見直す自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫を行っていますか

### 学校 「よくしている」を選択

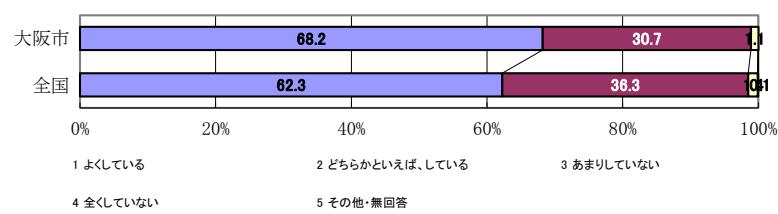


0.1

16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

### 学校 「よくしている」を選択

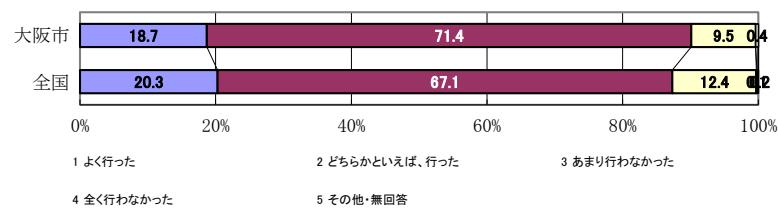


1.4

34

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

### 学校 「よく行った」を選択

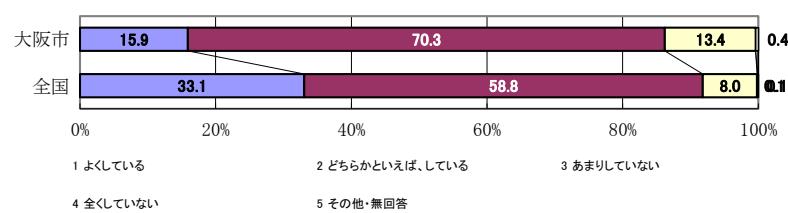


0.4

36

調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行っていますか

### 学校 「よくしている」を選択



0.4

0.1